



CASE STUDY レッドハット導入事例

セブンドリーム・ドットコム様

Red Hat Enterprise Linuxと OpenStandia(JBoss AS)を活用し 堅牢で柔軟なECシステムを構築

オープンソースベースのシステム構築で堅牢性と柔軟性を両立

株式会社セブンドリーム・ドットコムは、株式会社セブン-イレブン・ジャパンの子会社でEC（エレクトロニックコマース／電子商取引）分野における企画及び販売と、セブン&アイ・ホールディングスグループ向けの映像商品の卸売り、チケットサービス、ホームページ・メールマガジンの運営を行う会社です。ECサイトの「セブンドリーム・ドットコム」を運営しています。

2000年よりECサイトでのサービスを開始し、現在では10万点を超える商品を取り扱っています。Web上で注文し、店舗での支払い及び商品の受け取りができるなど、「クリック&モルタル」を実現したビジネスモデルを確立しました。Web経由以外にも、店舗設置のコピー機での各種チケットサービスなども手がけています。

サービス開始から5年が経過した2005年、抜本的なシステム基盤の再構築に着手しました。セブンドリーム・ドットコムの目指すものは「安心・安全・便利」なショッピングサイト。見直しの背景には、商品を購入されるお客様の利便性向上のさらなる追求に加え、ブロードバンドの普及や携帯電話からの利用の拡大、求められるコンテンツの多様化など、ECサイトを取り巻く環境の変化がありました。

【会社名】

- ・株式会社セブンドリーム・ドットコム
URL : <http://www.7dream.com/>
- ・株式会社野村総合研究所 (NRI)
URL : <http://www.nri.co.jp/>

新しいシステムに求められるのは、

- 1、大量のアクセス集中にも耐えられる、堅牢なシステムの構築
 - 2、処理能力の拡張や新たなサービスの組み込みを迅速に行える柔軟性
 - 3、ユーザビリティなど、サイト利用者の利便性の追求
- などの多岐にわたる要件を満たすことでした。

セブンドリーム・ドットコムは、これらの目的を達成するため、Webアプリケーションサーバに、Red Hat Enterprise Linuxに加え、アプリケーションの開発が容易で信頼性も高いシステムを構築することのできる、株式会社野村総合研究所のOpenStandiaの採用に踏み切りました。OpenStandiaにはJavaベースのアプリケーションサーバとして最も広く使われている、JBoss Application Serverが含まれています。

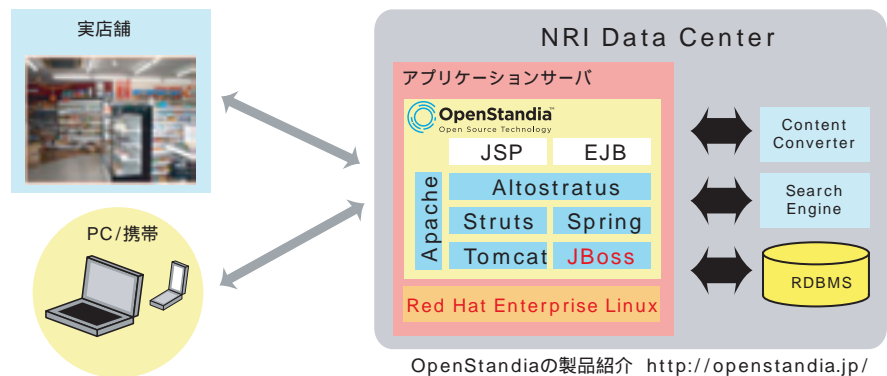
新システムは、セブンドリーム・ドットコムのECセンターとセブン-イレブン・ジャパンのセンターを統合したため、Webアプリケーションサーバのみでも約20台という大規模なものになりました。

しかし、Red Hat Enterprise LinuxとOpenStandiaの導入により、わずか3ヶ月という開発期間でサービスの提供が可能となり、その後のTCOの削減にも大きく寄与しています。

システム構築を担当した株式会社野村総合研究所では、構築期間の短縮にはOpenStandiaのテストフレームワークを活用したことが大きな理由であると指摘しています。これによりアプリケーションのテストが自動化され、アプリケーションの開発を効率的に進めることができたということです。さらにOpenStandiaを構成しているOSSは、あらかじめNRIでその性能の動作確認を行い、検証されています。検証やサポート体制を整えているからこそ、システムの信頼性を確保することができるのです。

また、実際の運用に当たっては、万一大量のアクセスが集中した場合にも、お客様を待たせることなくショッピングを続けられるようにする必要があります。そのためには安定したレスポンスを確保すると同時に適切なアクセス制御を行うことが必要で、この点でもOpenStandiaのフレームワークが役に立ちました。

現在では、一ヶ月平均1,500万アクセスに対応し、アクセス集中時にも商品購入プロセスに入っているお客様の処理は継続される仕組みを実現しており、サービス開始以来システム基盤の障害は発生しておりません。



NRIからみたJBoss

JBoss導入のメリットについて

今回のECサイト再構築において、お客様のご要望を念頭に置いてWebアプリケーションサーバの製品選定を行った。JBossの導入に至ったポイントとしては1) インフラとしての安定性、2) アプリケーション開発の際の柔軟性、3) ソフトウェアの内部構造まで見通せるオープンソース、といった項目が挙げられる。NRIでの検証や導入事例を通じても安定した運用を実現していた。ここに内部構造が公開されており、かつ粗結合であることによってアプリケーション開発がスムーズに行える点が、設計/開発チームからの評価を得ている。

またサポートチームの質の高さが特筆できる。開発者自身がサポートを業務の一部として担当していることによって、技術的な問い合わせに対して素早く具体的な内容での回答が得られる。開発中の疑問点や運用時の問題発生時に迅速に解決できることはミッションクリティカルなシステムにおいて非常に重要な評価ポイントとなってくる。なによりもソースコードが公開され修正/変更が自由に行えることにより、ソフトウェアを熟知することでシステムに対してより高いレベルで自社で責任を持ってお客様にご提案を行うことが可能となる。

株式会社野村総合研究所
オープンソースソリューションセンター
梶山 隆輔